高橋和巳全集

第十六巻

監修 吉川幸次郎
埴谷雄高

河出書房新社

中国文学論2　©1980

一九八〇年　二月　十五日　初版印刷
一九八〇年　二月二十五日　初版発行

著　者　高橋和巳

発行者　清水　勝
発行所　河出書房新社
東京都渋谷区千駄ヶ谷二―三一―二
電話　営業　〇三―四〇四―一二〇一
編集　〇三―四〇四―八六一一
振替　東京　〇―一〇八〇二
印刷・製本　中央精版印刷株式会社
落丁・乱丁本はお取替えいたします

高橋和巳全集　第十六巻

¥3,500

目次

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

李商隱　3

解説　5

錦瑟　25

房中曲　27

歌を聞く　29

曲江　32

樂遊原　35

重ねて聖女祠を過る　35

無題（颯颯たる東風　細雨來る）　38

無題（昨夜の星辰　昨夜の風）　40

無題（相見る時難く別るるも亦難し）　42

無題（重幃　深く下す　莫愁の堂）　43

中元に作る　45

常娥　47

碧城　三首

其の一　48

其の二　50

其の三　52

無題（情を含む　春晩）　54

無題（聞道らく　閶門の蓴緑華）　56
無題（八歳にして儉かに鏡に照つし）　57
無題（來るとは是れ空言　去って蹤を絶つ）　58
無題（鳳尾の香羅　薄きこと幾重ぞ）　60
無題（何の處か哀箏は急管に隨う）　62
牡丹　63
柳　66
李の花　67
日日　68
霜月　69
春日　懐を寄す　70
秋日晩思　71
蟬　73
西亭　74
幽居　冬の暮　75
少年　76
涙　78
辛未七夕　80
劉司戸蕡に贈る　82
劉蕡を哭す　84

令狐郎中に寄す　86
杜司勳　87
潭州　88
桂林　90
荆門　西より下る　92
搖落　94
夜雨　北に寄す　96
涼思　97
天涯　98
北青蘿　99
僧壁に題す　100
宮詞　102
漢宮詞　103
賈生　105
茂陵　106
籌筆驛　108
南朝　111
北齊　114
景陽の井　115
隋宮　116

馬嵬　119
驕兒の詩　121
行きて西郊に次る作　一百韻　131
韓碑　158
李商隱年譜　169
跋　吉川幸次郎　183
李商隱略図　187

王士禎　189

解説　191
秋柳　四首　213
其の一　215
其の二　217
其の三　219
其の四　221
白紵詞　三首（一首を錄す）　223
清明の後三日　鄠平の西郭にて詩を賦す　226
蠶の詞　四首（二首を錄す）
其の一　227

其の二　228
南唐宮詞　六首（一首を錄す）　229
雁を聞く　230
慈仁寺にて秋夜　舊を懷う　232
抱琴歌　233
卽目　234
迪功の集に題す　235
高郵に夜泊る　237
余澹心　金陵詠懷古跡の詩を寄す　卻って寄す　二首（一首を錄す）　238
再び露筋祠を過る　240
青山　241
江上　二首（一首を錄す）　242
雨後　觀音門に江を渡る　243
曉雨　復た燕子磯の絕頂に登る　245
吳の季子の祠下にて作る　247
姑蘇懷古　三首（一首を錄す）　252
夜雨　寒山寺に題し　西樵・禮吉に寄す　二首（一首を錄す）　254
牧翁、沈朗倩の石崖秋柳小景に題せるに和す　256
秦淮雜詩　六首（四首を錄す）
其の一　257
其の二　258

其の三　259
其の四　261
大風渡江　三首（一首を錄す）　262
頻歲　263
葉訒菴　吳中より余に長歌を寄せ、兼ねて金山に憶わるるの作を示されしに奉答す　265
陳伯璣に金陵に寄す　271
眞州絕句　五首（二首を錄す）
其の一　272
其の二　273
江東　274
亡名氏の畫　276
戲れに元遺山の論詩絕句に倣う　三十六首（三首を錄す）
其の一　277
其の二　278
其の三　280
秦郵雜詩　六首（一首を錄す）　281
茅山進香曲　四首（一首を錄す）　282
冶春絕句　十二首（二首を錄す）
其の一　283
其の二　284
孫無言の黃山に歸るを送る　284

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

秦淮の水榭に題す　285
夜に江口に泊りて笛を聞き　家兄西樵に寄す　四首（一首を錄す）　287
皇廠河道中　二首（一首を錄す）　288
明湖を憶う　289
孫豹人の小像に題す　291
費密の詩を讀む　292
上巳　辟疆は邵潛夫・陳其年を招同し水繪園に修禊す　八首（一首を錄す）　293
詠史小樂府　二十四首（二首を錄す）
其の一　296
其の二　297
金陵道上　298
荷蘭の刀劍　299
三月晦日、公敵は曰緝・玉虬・苕文・周量・玉隨・湘北・子端を招同し河樓に集う。絕句五首を得たり（一首を錄す）　300
竹枝三首、陸冰脩を送る（一首を錄す）　303
灞橋にて內に寄す　二首（一首を錄す）　304
故宮の曲　二首（一首を錄す）　305
沔縣にて諸葛武侯の祠に謁す　306
虎跳驛　307
藥物　309
潼川にて少陵を憶う　310

清音亭　312
漢嘉の竹枝　五首（一首を錄す）　312
長壽縣にて雪菴和尚を弔す　313
漫興　十首（一首を錄す）　315
韻を用い容齋・說巖二學士と訒菴侍讀とに荅別す　317
先兄西樵の故書を閱し泣して賦す　319
張友石戶部　雷氏の琴を得たり　321
腳痛　323
悼亡詩　二十六首（四首を錄す）
其の一　326
其の二　327
其の三　328
其の四　329
金孝章は壬子の冬を以て梅を畫きて予が兄弟に寄せたり、今にして六年なり矣、丁巳七月、先生の子祖生、京師に至り、始めて之を見す、而して先生と先兄考功と、皆已に下世す、愴然として詩を賦す　330
初秋　梅耦長の畫を索む　331
宋荔裳の妻孥の消息を得ず　332
遂安の毛貞女の詩　334
汪舟次檢討と林石來舍人の使を琉球に奉ずるを送る　四首（一首を錄す）　337
雨後　天寧寺に至る　338

顧茂倫と吳漢槎　絕句詩を撰す、國朝は止だ三家のみ、乃ち拙作を以て牧翁と鈍翁の間に參す、戲れに二首を寄せ幷せて鈍翁に示す（一首を錄す）　339
沙河自り唐婆嶺に至る　卽事　341
廣州竹枝六首（一首を錄す）　342
聰明泉　343
錢牧翁は李長蘅の詩「穀城山好し靑きこと黛の如し、滕縣花開きて白きこと銀に似たり、」を喜べり、佳句なり、予は冬と夏とに兩たび滕を過れるも一花すら見ず、因りて絕句を成す　344
賣酒の樓　345
鍾聖輿より芍藥を送らるるに答う　346
王士禛年譜　347
王士禛略図　359

詩人の運命　361

第十六巻　中国文学論2

李商隱

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com